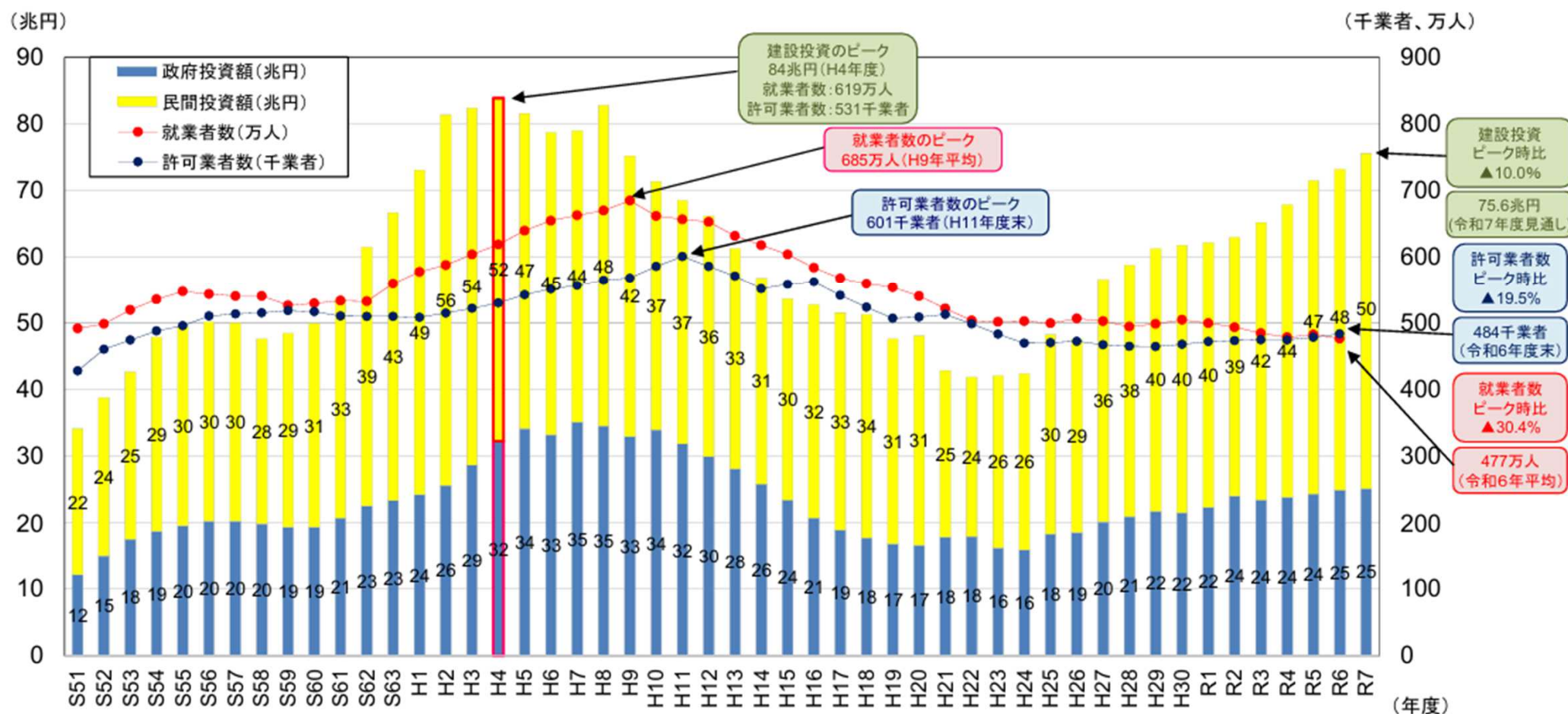




新技術活用について

建設投資、許可業者数及び就業者数の推移

- 建設投資額はピーク時の平成4年度：約84兆円から平成22年度：約42兆円まで落ち込んだが、その後、増加に転じ、令和7年度は約76兆円となる見通し（ピーク時から約10%減）。
- 建設業者数（令和6年度末）は約48万業者で、ピーク時（平成11年度末）から約20%減。
- 建設業就業者数（令和6年平均）は477万人で、ピーク時（平成9年平均）から約30%減。



出典: 国土交通省「建設投資見通し」・「建設業許可業者数調査」、総務省「労働力調査」

注1 投資額については令和4年度(2022年度)まで実績、令和5年度(2023年度)・令和6年度(2024年度)は見込み、令和7年度(2025年度)は見通し

※平成27年度の建設投資額から建築補修(改装・改修)投資額を新たに計上している

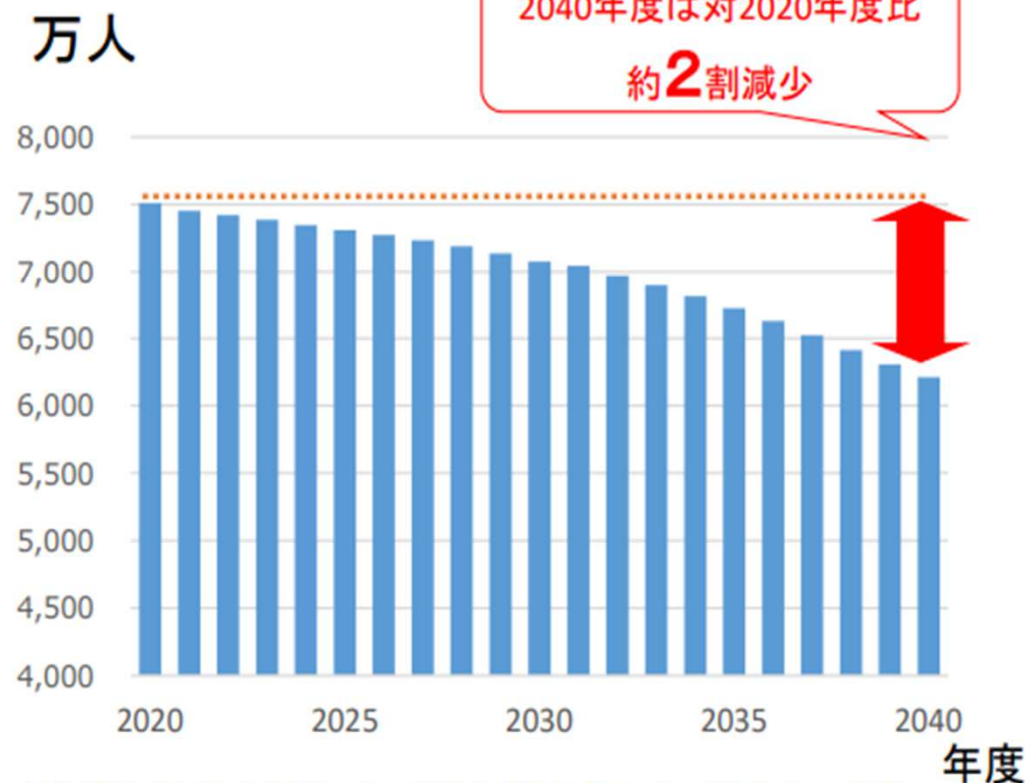
注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値

注3 就業者数は年平均。平成23年(2011年)は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を補完推計した値について平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値

- 生産年齢人口は2040年度には、対2020年度比で約2割減少と予測。
- 毎年のように日本各地で自然災害が発生し、被害が激甚化・頻発化。

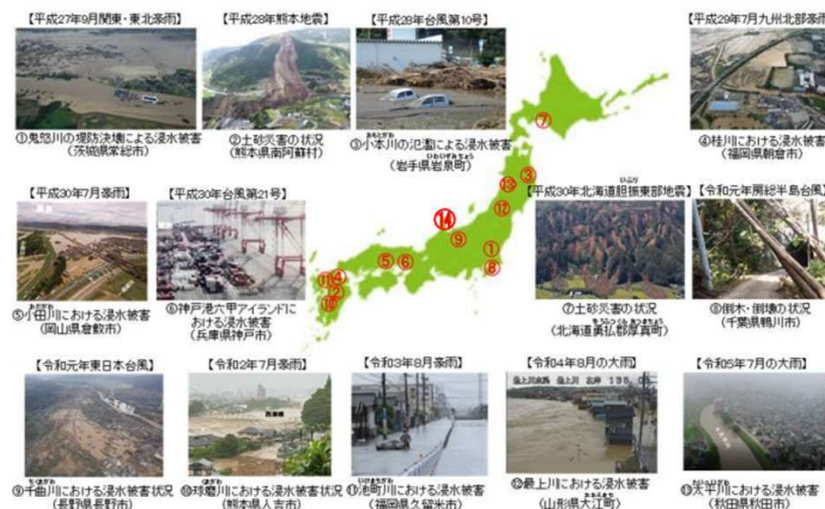
生産年齢人口の推移

2020年度 約7,509万人 ⇒ 2040年度 約6,213万人



【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計
(令和5年度推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

災害の激甚化・頻発化



主な災害の発生状況



能登半島地震 (R6.1. 1)
(石川県輪島市) TEC-FORCE撮影

- 高度経済成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、水道、下水道、港湾等について、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に増加する。

※施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理。

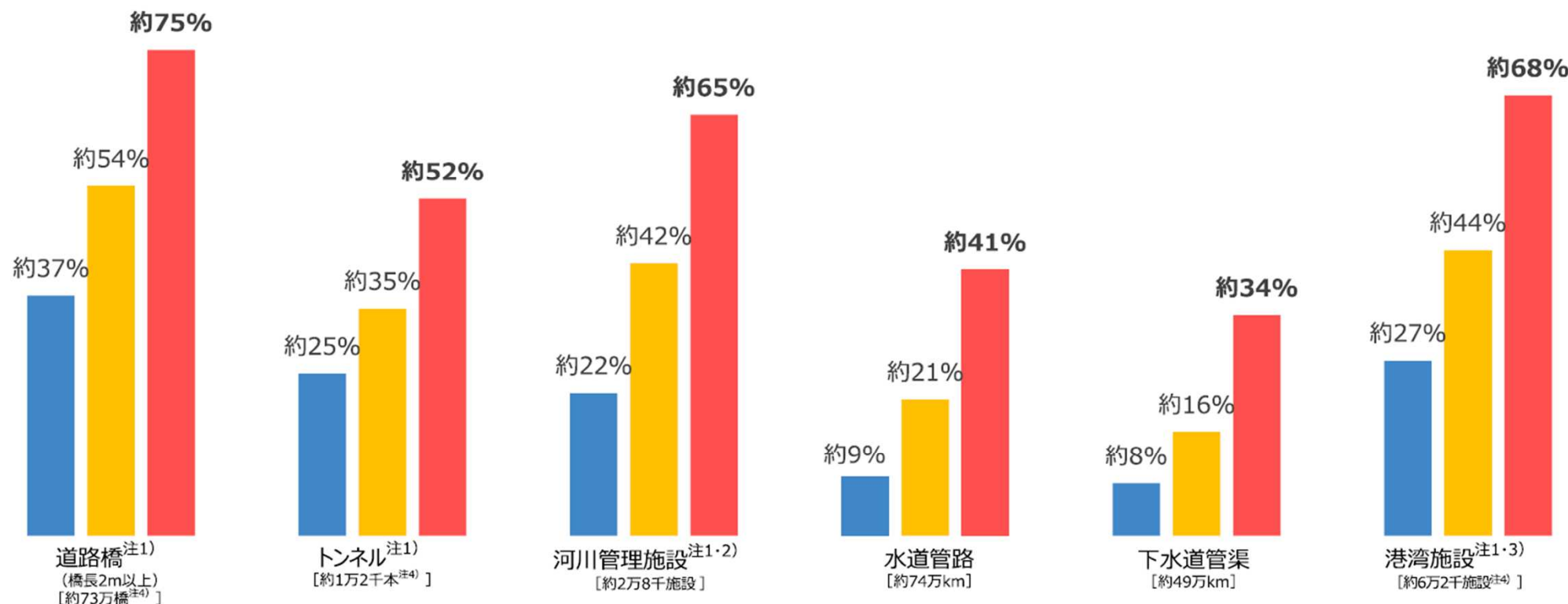
【建設後50年以上経過する社会資本の割合】（2023年3月時点）

[] : 各施設の総数（総延長）

■ 2023年3月

■ 2030年3月

■ 2040年3月



注1) 建設後50年以上経過する施設の割合については、建設年度不明の施設数を除いて算出。

注2) 国：堰、床止め、閘門、水門、揚水機場、排水機場、樋門・樋管、陸閘、管理橋、浄化施設、その他（立坑、遊水池）、ダム。独立行政法人水資源機構法に規定する特定施設を含む。
都道府県・政令市：堰（ゲート有り）、閘門、水門、樋門・樋管、陸閘等ゲートを有する施設及び揚水機場、排水機場、ダム。

注3) 一部事務組合、港務局を含む。

注4) 総数には、建設年度不明の施設数を含む。

- i-Construction2.0とインフラ分野のDX化の取り組みにより、建設現場の生産性向上、労働環境の改善、担い手不足の解消等を目指し、また行政サービスの向上をはかります。
- 民間で開発された新技術を導入しやすい環境作りや技術開発を促進する取り組みを進めていく必要がある。

インフラ分野のDX(業務、組織、プロセス、文化・風土、働き方の変革)





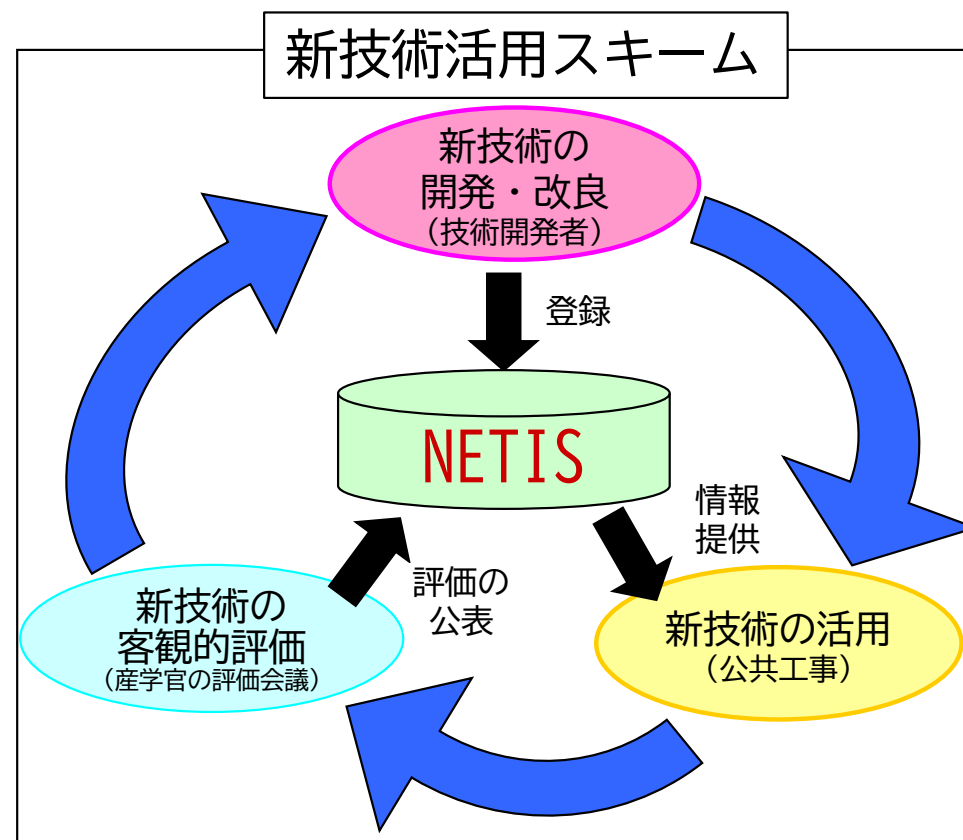
新技術活用促進の取り組み

- ・国土交通省では新技術活用促進の取り組みとして、「新技術活用スキーム」を整備
- ・「新技術活用スキーム」とは、NETISを用いて民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用していくための仕組み

NETIS（新技術情報提供システム）
（New Technology Information System）
を中核とする

- ✓ 新技術情報の収集と共有化
- ✓ 直轄工事等での活用
- ✓ 効果の検証・評価
- ✓ さらなる改良と技術開発

一連の流れを体系化したもの



【基本となる活用方式】

発注者 指定型

◆発注者がこの新技術を使うようにと指定する場合

⇒発注者の指定により活用を行うタイプ

⇒発注者指定型（選択肢提示型）

テーマに基づく複数の新技術を選択肢としてリストを提示し、契約後に施工者がリストから新技術を選択するタイプ

施工者 選定型

◆施工者から契約前（総合評価落札方式での技術提案）もしくは契約後に提案があった場合

⇒施工者からの提案に基づき、新技術の活用を行うタイプ

【その他、活用を促す取組み等】

テーマ設定型 （技術公募）

◆テーマごとに整理された「技術比較表」をNETISに掲載。受発注者が現場に適した新技術を選定して活用

⇒技術開発者からテーマにあった新技術を募集し、選考して活用を行うタイプ
活用後は、評価結果に基づき「技術比較表」を公表

現場ニーズ・ 技術シーズの マッチング

◆事務所等が設定したニーズに対しNETIS未登録技術を対象にシーズの公募を行いマッチングが成立したシーズを対象に現場において活用

新技術導入促 進（Ⅱ）型

◆発注者が指定するテーマについて、実用段階に達していない技術又は研究開発段階にある技術の検証に関する提案を求め、総合評価において提案技術の有効性、具体性等について評価して活用（原則として技術提案評価型で適用）

- ・新技術の活用促進と新たな技術開発の活性化の好循環を起こし、生産性向上や激甚化・頻発化する災害への対応、最新技術を活用する産業として担い手確保等に資するため、令和2年度より**国土交通省直轄土木工事における新技術の活用を原則として義務化**

対象工事：直轄土木工事（港湾空港関係、官庁営繕工事を除く）を対象

※機械設備工事、電気通信設備工事、維持工事も義務化の対象

原則義務化の対象とする新技術

- ① N E T I S 登録技術
- ② テーマ設定型で技術公募した技術
- ③ 新技術導入促進(Ⅱ)型で提案された技術
- ④ ニーズ・シーズマッチングで試行している技術

- ✓新技術とは、①技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されており、②実用化している公共工事等に関する技術であって、③当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術（公共工事等における新技術活用スキーム実施要領）

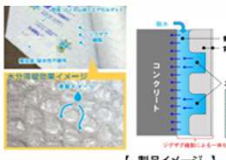
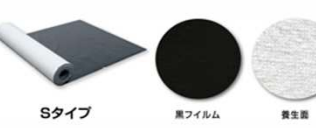
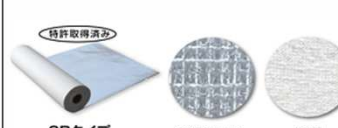
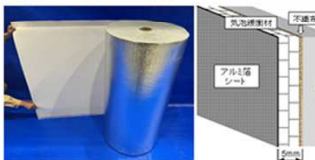
新技術活用の原則義務化の範囲

- 上記①②③に加えて、④実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であって国により導入促進を図る技術を追加（新技術導入促進（Ⅱ）型、現場ニーズ・技術シーズのマッチング）



- ・テーマごとに整理された「技術比較表」(現在48テーマ)をNETISに掲載
- ・各技術の特徴が整理されているため、受発注者が現場に適した新技術を選定し、活用することが可能

技術比較表のイメージ (例：打設直後のセメント、コンクリートの養生技術(抜粋))

No.	1	2	3	4	5
技術名称	コンクリート保湿・保温養生シート「龍王(うらおう)」	湿トワシステム(アクアマットSタイプ)	地覆キュア	アクアマットSPタイプ	高断熱性保湿養生シート「アクアサーモ」
副題	保湿性及び保温性に優れた鉛直・水平兼用の養生シート	コンクリート養生工程管理(コンクリート表面温度測定、養生マットの含水率測定、養生マットへの給水)の省人化・見える化・遠隔管理システム	地覆部コンクリート仕上げ面に使用する養生マット	春期～秋期(特に夏期)において散水回数の低減を可能とした遮光性および保水性を有するコンクリート用養生マット	保温性、保水性に優れたハイブリッド型のコンクリート養生シート
応募者名	太田建設株式会社	早川ゴム株式会社	早川ゴム株式会社	早川ゴム株式会社	株式会社大林組
共同開発者	—	高田機工株式会社	高田機工株式会社	株式会社H-Iインフラシステム、株式会社H-II	—
NETIS登録番号	CB-180004-VE	QS-220009-A	QS-220010-A	CG-160015-VE	KT-220201-A
NETIS登録名称	コンクリート保湿・保温養生シート(龍王「うらおう」)	コンクリート養生管理システム「湿(ウル)トワシステム」	地覆部コンクリート仕上げ面に使用する養生マット「地覆キュア」	アクアマットSPタイプ	高断熱性保湿養生シート「アクアサーモ」
A-1 技術概要	吸水性不織布とフィルム加工気泡緩衝材(エアセルマット)をジグザグ縫製により一体化したコンクリート保湿・保温養生シートである。散水後のシート内の水分滞留効果により、保湿・保温効果を長期保持できる。また、軽量で鉛直・水平面を問わず養生が可能となる。	本技術は、コンクリートの品質確保に関する技術である。コンクリート養生工程管理の支援システムで、従来は、作業員の手動散水+養生マットによる養生で対応していた。本技術の活用により、養生工程を省人化・見える化・遠隔管理できるため、施工性が向上する。	本技術は、コンクリートの品質管理に関する技術である。スリット構造の養生マットで、従来は、散水+ブルーシートで対応していた。本技術の活用により、鉄筋を避けながらコンクリート面に密着した確実な養生が可能となるため、施工性および品質が向上する。	アクアマットSPタイプは、遮光性能と保水性とを併せ持つ養生マットであり、従来技術に比べて散水回数の大幅な低減を可能とした養生技術である。春期～秋期においてその効果を確認しているが、特に夏期の使用における効果が極めて大きい。	本技術は、保温性と保水性を同時に得られる高断熱性保湿養生シートを用いた養生工法である。従来は保温と保湿の養生対策を別々で対応していたが、本技術の活用により保温対策と保湿対策が1枚の養生シートの敷設でできるため、経済性・施工性に優れた養生が可能となる。
A-2 具体的な手段(応募情報に基づき掲載)	養生マット	養生マット	養生マット	養生マット	養生マット
A-3 材料の仕様	・材質(養生面): 吸水性不織布(パルプ50/レーヨン50) ・材質(背面): フィルム加工エアセルマット(ポリエチレン緩衝材) ・幅: 1.2m(有効幅1.1m) ・長さ: 20m ・厚み: 2.5mm ・単位質量: 3.5kg/本 ・荷姿: 円筒形状(高さ: 1.2m 幅: 0.25m)  【製品イメージ】	・材質: 保水加工不織布(養生面)、水分高発抑制フィルム(表面) ・幅: 1m ・長さ: 20m ・厚み: 1.3mm ・単位質量: 6.6kg/本 ・荷姿: 巻状(20m²)  【製品イメージ】	・材質: 保水加工不織布(養生面)、水分高発抑制フィルム(表面) ・幅: 480mm ・長さ: 1m ・厚み: 1.3mm ・単位質量: 0.16kg/枚 ・荷姿: 巻状(10枚/ケース)  【製品イメージ】	・材質(養生面): 保水加工不織布 ・材質(表面): 水分高発およびコンクリート表面温度の抑制フィルム ・幅: 1m ・長さ: 20m ・厚み: 2.2mm ・単位質量: 310g/m²(乾燥時) ・荷姿: 巻状(20m²)  【製品イメージ】	・材質: アルミ箔シート+気泡緩衝材+不織布 ・幅: 1.050mm ・長さ: 50m(1ロール) ・厚み: 5mm ・単位質量: 21kg/1ロール ・荷姿: 1ロール毎にビニール梱包  【製品イメージ】
A-4 対象構造物	コンクリート構造物全般に可能。	コンクリート構造物全般に適用可能である。ただし、水勾配が必要。	地覆部コンクリート仕上げ面を対象としている。	コンクリート構造物全般に適用可能であり、傾斜勾配10%以下の面に対応している。	コンクリート構造物全般に適用可能。断熱性が高く、マスコンクリート構造物や冬季施工を行う構造物に対して効果が高い。
A-5 適用可能範囲	< 適用可能面 > ☒ 上面 ☒ 傾斜 (0°～90° まで) ☒ 鉛直 < コンクリートの状態等 > ・コンクリート打設後の、仕上げ後の水平天端面および脱型後の鉛直面(90° 以内)に適用可能。	< 適用可能面 > ☒ 上面 ☐ 傾斜 ☐ 鉛直 ☐ 下面 < コンクリートの状態等 > ・水勾配を有するコンクリート上面の養生管理に適用可能。 ※水勾配は1.5%程度以上。	< 適用可能面 > ☒ 上面 ☐ 傾斜 ☐ 鉛直 ☐ 下面 < コンクリートの状態等 > ・鉄筋が残置されている地覆部コンクリート仕上げ面に適用可能。	< 適用可能面 > ☒ 上面 ☒ 傾斜 (勾配が10%以下) ☐ 鉛直 ☐ 下面 < コンクリートの状態等 > ・水平面からの傾斜勾配10%以下。 ・コンクリート表面に鉄筋等の突出物がある場合でも孔あけ等により対応可能。 ・カッターナイフ等で切断できるため、敷設表面の平面的な形状は制約なし。	< 適用可能面 > ☒ 上面 ☒ 傾斜 ☒ 鉛直 ☒ 下面 < コンクリートの状態等 > ・特筆すべき事項なし。

NETIS テーマ設定型のページ

(<https://www.netis.mlit.go.jp/internalnetis/pubtheme/themesettings>)



テーマ設定型（技術公募）

我が国の社会資本ストックは、高度経済成長期などに集中的に整備され、今後急速に老朽化することが懸念されることから、社会資本を安全により長く利用できるよう、劣化や損傷の備考を確実に把握することで、戦略的な維持管理・更新を行うことが課題となっています。

国土交通省としても、これらの老朽化対策に全力を挙げて取り組んでいるところです。その取組の一環として、新技術情報提供システム（NETIS）のテーマ設定（技術公募）を活用し、技術公募を行っています。

テーマ設定型（技術公募）の比較表を公表した技術テーマ

No.	技術テーマ（技術応募）	リクワイヤメント	選定技術	技術比較表	参考資料	その他/区分
1	打設直後のセメント、コンクリートの養生技術	R05.02 PDF	R06.03 PDF	R06.03 公開 PDF		
2	急傾斜法面等に適用できる草刈り技術	R04.12 PDF	R06.05 PDF	R06.05 公開 PDF		
3	上塗り塗装施工したままで可能な溶接部の亀裂・劣化調査技術	H26.11 PDF		H28.07 PDF		
4	鉄筋コンクリート並びにプレストレストコンクリートのかぶり部における塩化物イオン含有量の非破壊、微破壊調査が可能な技術			H28.07 PDF		
5	目視困難な水中部にある鋼構造物の腐食や損傷等を非破壊で検査可能な技術	H26.02 PDF	H26.09 PDF	H29.02 PDF		
6	コンクリート構造物のうき・剥離を検出可能な非破壊検査技術	H29.06 PDF	H29.10 PDF	H30.03 PDF		
7	土木鋼構造物塗膜剥離剤技術	H29.08 PDF	R06.06 PDF	R08.05 PDF		
8	遠隔操縦における作業効率向上に資する技術（無線通信技術、映像処理技術）	R01.05 PDF	R01.07 PDF	R02.03 PDF		

技術比較表が確認できます

- ・建設現場で困っていることや試してみたいことを「現場ニーズ」、それを解決する技術を「技術シーズ」と称して現場ニーズを地方整備局等のHP上で公表、このニーズに対応出来そうな技術を持っている企業を広く公募
- ・マッチングイベント(技術のプレゼン)にて現場条件や技術の内容を確認し、成立した技術は現場での試行を行い、技術評価を行った上で現場実証結果から更なる技術改良や試行現場の拡大による現場実装を目指すといった取り組み



「現場ニーズと技術シーズのマッチング」の技術の確認方法

NETIS マッチングのページ

(<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubmatch/pubmatch>)

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

[新技術の検索](#)
[登録申請/変更・更新
/事前相談](#)
[活用効果調査表
/活用計画書](#)
[テーマ設定型
の比較表](#)
[マッチング](#)
[維持管理技術
ページ](#)
[震災復旧・復興
支援技術ページ](#)
[NETIS活用状況
データベース](#)
[マニュアル
/FAQ](#)

現場ニーズと技術シーズのマッチング

国土交通省では、建設現場の生産性向上を図る「i-Construction」を推進し、誰もが働きやすい現場を目指しています。企業間連携"×Tech."（クロステクノロジー）を実装するため、主に建設分野以外の最新技術（IoT、ロボット、AI等）を建設現場に取り入れることを目的として、新技術導入に向けた「現場ニーズと技術シーズのマッチング」を行っております。

「現場ニーズ・技術シーズのマッチング」実施要領 等

現場ニーズと技術シーズのマッチングの取組を推進するため、実施要領が策定されています。

[実施要領](#)
[シーズ公募要領・作成要領](#)
[現場ニーズと技術シーズのマッチング パンフレット](#)

現場ニーズ			技術シーズ					備考	摘要
登録地整/自治体	▲ ▼	現場ニーズ概要	マッチング 年度	技術シーズ概要	試行状況	現地試行結果	NETIS登録		▲ ▼
▲ ▼	区分	工種	▲ ▼		▲ ▼		▲ ▼		
中部地方整備局	道路	測量・調査	2021	現地状況を簡易的に確認できる技術（3次元データを活用したデータ管理技術）	現場試行完了	令和6年3月27日公表		三菱電機株式会社 https://www.mitsubishielectric.co.jp/mmsd/support/index.html	
中部地方整備局	その他	安全	2022	ベストリハバンド Pro によるバイタル自動検知技術	現場試行完了	令和6年3月27日公表		ベストリハ株式会社 https://helpcare.life/iot/	
北海道開発局	河川	維持・管理	2023	無動力減災ゲート	現場調整中				
北海道開発局	道路	維持・管理	2023	サイロ内材料（粉体）貯蔵レベルの遠隔監視	現場調整中				
四国地方整備局	道路	測量・調査	2021	地下埋設物の詳細な位置・種類・規模等、地上から確認（可視化等）及び三次元化等が可能な技術					

マッチングの技術の確認ができます

工事成績における新技術活用の加点措置（主任技術評価官評価部分）

（主任技術評価官の評価は40%が工事成績に反映 最大加点2点×40%=0.8点加点）

【新技術活用】

「新技術活用」においては、以下の3項目により、複数の技術の評価を可能とするが、**最大2点の加点とする。**

以下の項目の評価にあたっては、活用効果調査表の提出が不要な場合を除き、発注者及び受注者の双方による全ての活用効果調査表、新技術活用計画書・実施報告書等を確認した上で評価する。ただし、加点対象は受注者側から新技術活用を提案した場合のみとし、発注者が指定し活用した場合は加点措置を行わないものとする。

- ☐ （該当技術数： ） N E T I S登録技術のうち、事後評価未実施技術または事後評価で「有用とされる技術」と評価された技術を活用し、活用効果が相当程度確認できた。※本項目は **2点の加点**とする。
- ☐ （該当技術数： ） N E T I S登録技術のうち、事後評価未実施技術または事後評価で「有用とされる技術」と評価された技術を活用し、活用効果が一定程度確認できた。※本項目は **1点の加点**とする。
- ☐ （該当技術数： ） N E T I S登録技術のうち事後評価実施済み技術（「有用とされる技術」を除く）を活用し、活用の効果が相当程度確認できた。※本項目は **1点の加点**とする。

※ここで「有用とされる技術」とは、「公共工事等における新技術活用スキーム」実施要領で定める「活用促進技術」、「推奨技術」、「準推奨技術」、「評価促進技術」等をいう。

※複数の技術の評価にあたっては、活用した技術数に応じ複数の評価項目を選択することを可能とするが、最大2点の加点とする。複数の技術が同一の評価項目に該当した場合、該当技術数に対し各項目の加点点数を掛け合わせたものを評価の点数とするが、この場合も最大2点の加点とする。

※マッチング評価技術のうち普及促進技術に指定された技術は、「事後評価実施済み技術（「有用とされる技術」を除く）」と同等とする。

【注意事項】

工事成績の加点措置を受けるには、原則として「新技術活用計画書」と「新技術活用効果調査表」の提出が必要です。但し、N E T I S登録番号の末尾（情報種別記号）が「－ V E」の技術については、「新技術活用効果調査表」の提出は不要です。

「有用な新技術」とは、「推奨技術」、「準推奨技術」、「評価促進技術」、「活用促進技術」の4種類

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 | 登録申請/変更・更新 /事前相談 | 活用効果調査表 /活用計画書 | テーマ設定型 の比較表 | マッチ

新技術を探す

検索キーワード
登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。

▼キーワード検索

AIで技術を検索
NETIS情報を元にし

工種

▼工種検索条件を追加

有用な新技術の選択

☒ 推奨技術 ☒ 準推奨技術 ☒ 評価促進技術 ☒ 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

☐ 活用促進技術（旧） ☐ 設計比較対象技術 ☐ 少実績優良技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む

☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 品質の向上 ☐ 安全性の向上 ☐ 施工性の向上

☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索 ▼ 他の条件を表示

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞り込みなし（全件）になります。

申請されている従来技術名の検索

試行現場照会一覧

過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧

確認方法①（新技術の検索から確認） 利用上の注意

4つのチェックボックス全てを選択し、検索すると「有用な新技術」の一覧を確認することが出来ます。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 | 登録申請/変更・更新 /事前相談 | 活用効果調査表 /活用計画書

戻る 印刷・プレビュー

印刷設定方法はこちら

※印刷を行う際は、用紙の向きを「横」に設定してください。
※余白・印刷のサイズも印刷時に調整可能です。（表などが見づらい場合は、「余白：なし、印刷サイズ：A3」に設定すること）

新技術概要説明情報

NETIS登録番号 CB-240032-VE

技術の位置付け
(有用な新技術)

推奨技術
準推奨技術
評価促進技術
活用促進技術

旧実施要領における技術の位置付け

活用促進技術(旧)
設計比較対象技術
少実績優良技術

活用効果調査入力様式 [-VE] 活用効果調査表の作成・登録

確認方法②（各新技術のページから確認）

各新技術のページの「技術の位置付け(有用な新術)」に表示されている内容で確認することもできます。

活用方式	技術の区分	総合評価の加点	工事成績の加点
①発注者指定型	特記仕様書で指定したNETIS登録技術	×	×
	マッチング評価技術※1	×	○ ただし2年間
②発注者指定型 (選択肢提示型)	特記仕様書で指定したNETIS登録技術	×	×
③施工者選定型	NETIS登録技術	×	○
	新技術導入促進（Ⅰ）型で提案された技術 （※NETIS登録技術）	○	○
	新技術導入促進（Ⅱ）型で提案された技術 （※NETISに登録されていない開発段階の技術）	○	×
	マッチング評価技術※1	×	○ ただし2年間

※1 マッチング評価技術のうち、普及促進技術に指定された技術

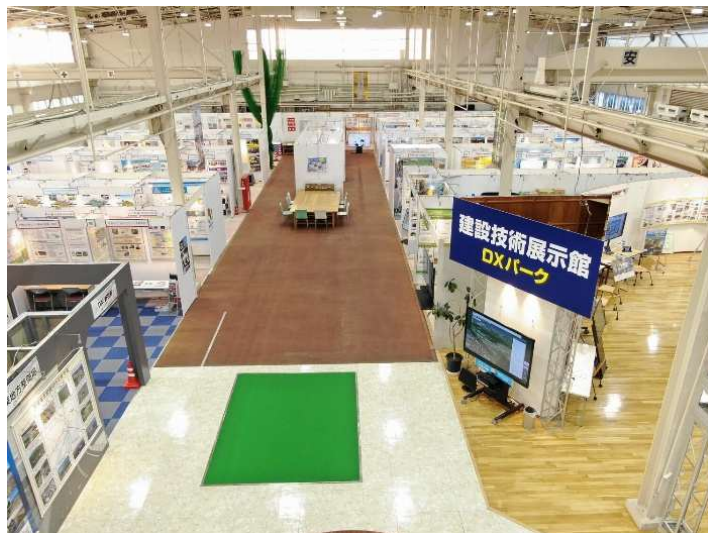


その他(新技術に関する情報提供)

建設技術展示館では、展示内容を一新し、最新の建設技術を分かりやすく紹介する展示ブースに加えて、VR技術やマイクラフト等の多様な体験型コンテンツを通じて、建設技術をより身近に感じられる展示内容へとリニューアルし、令和8年5月28日より一般公開を開始しました。



建設技術展示館 外観



屋内展示

楽しく学べる施設に一新

- ◆ 展示コーナー
最新の建設技術が身近に感じられるわかりやすい展示
- ◆ 体験コーナー
家族や友人同士で参加できるような体験コンテンツを充実

【新たな体験コンテンツ】

マイクラフト土木体験

建設機械ラジコン体験

遠隔シミュレーター体験

ドローン操作体験

【最新技術展示】



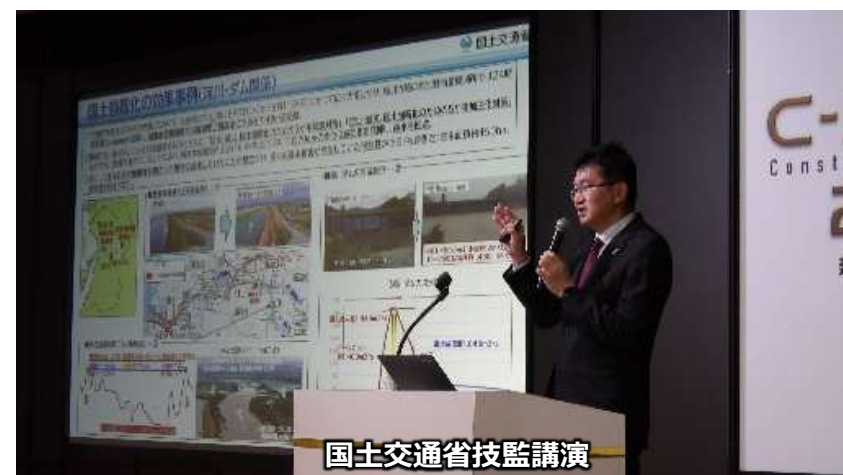
災害対策車両展示



住所: 千葉県松戸市五香西6-12-1
(関東技術事務所敷地内)



R7 来場: 16,000人超

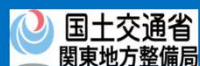


国土交通省技監講演

併催 国土交通省関東地方整備局 主催

建設技術 フォーラム 10.20 TUE

「X-Tech」(クロステクノロジー)を実現する新技術」をテーマに、最新技術(IoT, ロボット, AIなど)を建設現場に取り入れることを目的とした技術や「i-Construction」「インフラDX」に資する技術などを紹介いたします。



C-XROSS 2026
Construction Xross 2026
建設技術展2026 関東

※プログラム調整中

- 【講演】 国土交通省の取り組み
自治体の取り組み
業団体の取り組み
- 【技術発表】 大学等研究機関による技術開発
開発者による技術の詳細発表
- 【技術展示】 多くの開発者が集い、実機や映像を使って技術を展示
- 【その他】 トークショーや学生向けイベントなど



200超の企業団体による技術展示